

# 山梨日日新聞

4月28日 木曜日

発行所 山梨日日新聞社  
〒400-8515 甲府市北口2-6-10  
電話(055)231-3000

「トモダチ作戦」 ガードナー米海軍司令官に本紙インタビュー

## 「復興の手伝い 大きな喜び」



インタビューに答える米海軍厚木施設のエリック・W・ガードナー司令官  
|| 神奈川県綾瀬市

東日本大震災の被災地を支援する米軍の「トモダチ作戦」に参加している米海軍厚木施設のエリック・W・ガードナー司令官が27日、山梨日日新聞の取材に応じた。「震災で大きなダメージを受けた被災地で復興の手伝いができることは、われわれにとって大きな喜び」と語り、忍耐強い被災者に感動したという。作戦は今後も継続し、日本の復興に貢献して日米関係をさらに深めたい考えを示した。

ガードナー司令官は同施設トップで、海兵隊員の総指揮が任務。隊員は、大型ヘリで食料などの救援物資を被災地に輸送したほか、行方不明者の捜索やがれきの撤去作業などに当たっている。

現時点でのトモダチ作戦について、ガードナー司令官は「人道支援や救援活動に携わった日本の皆さんの復興に参加することができた」と成果を強調。日米の友好関係が

一層深まったとも感じている。現地に赴いてはいないが「隊員から聞いて印象に残ったのは、被災者の忍耐強さと

他人を思いやる気持ちだ」と言う。ある避難所にヘリで向かい救援物資を運んだ時、1機が物資を下ろすと被災者は整然と物資の運び入れを手伝ってくれた。「もう1機分は困っているところを持っていった」とも言われたという。「隊員も被災者の謙虚さに心を打たれたようだ。今回の作戦に参加し、日本人に尊敬の気持ちを抱いた隊員は多い」と、隊員が積極的に任務に当たっていることも説明した。被災状況はひどく、復興には時間がかかるとの見解を示しながらも「道路や新幹線の復旧の早さに驚いた。復興を目指す日本人の姿は世界の人人々にとって見本になるだろう」と語った。

## 北杜・萌木の村「マブダチ作戦」 米軍へ感謝の地ビール

東日本大震災で人道支援に当たる米軍の「トモダチ作戦」に感謝し、北杜市高根町清里の萌木の村(鈴木上次社長)は27日、米海軍厚木施設に同社で製造する地ビール「タツチタウンビール」を30ケース送った。同社は、米軍の作戦名にちなみ、ビールの贈呈プ

ロジェクトを「マブダチ作戦」と名付けた。同社の鈴木良さんが神奈川県綾瀬市の同施設を訪ね、エリック・W・ガードナー司令官にビールを手渡した。鈴木さんは「米軍の救援活動に感謝している。友情で結ばれた日米の関係が深まることを願

っている」と話し、ガードナー司令官は「善意はとてもうれしい。隊員たちとともに味わいたい」とした。

清里開拓の父ポール・ラッシュ博士は、関東大震災の復興ボランティアとして来日。太平洋戦争中の一時帰国を経て連合国軍総司令部(GHQ)の一員として厚木に降り立ち、退役後は米国民の募金をもって清里の開拓に携わった。

(1) 2版 明治25年3月11日

きょうの紙/面

東日本大震災

●厚木の米海軍トップ「トモダチ作戦」語る

米海軍厚木施設のエリック・W・ガードナー司令官にビールを手渡す萌木の村の鈴木良さん  
|| 神奈川県綾瀬市

「感謝の気持ちを表したかった」と話した。